



関高 SGH 情報 第55号

平成 30 年 2 月 23 日(金)
SGH プロジェクト委員会

今回は、第39回ユニセフハンド・イン・ハンド街頭募金活動の報告です。

◇ 2017年のテーマは『子どもたちに生きるチャンスを』

12月23日(土)、「とれったひろば・関店」で、ユニセフ(国連児童基金)の活動に賛同しての募金活動に参加しました。テーマは『子どもたちに生きるチャンスを』です。

およそ5秒に1人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。

世界の5歳未満児死亡率は1990年から半分に減少しましたが、その一方で、およそ約5秒にひとり子どもたちが予防可能な原因で5歳の誕生日を迎える前に命を落としています。世界のどこに生まれても尊い命。その一人ひとりに名前があり、家族があり、未来があります。でも命を守る方法が足りません。皆さまのあたたかいご支援をいただければ5秒後に失われてしまう小さな命のともしびに、明るさを取り戻すことができます。

子どもの命を救う有効な方法はすでにあります。

先進国に生まれていれば防げたはずの感染症や下痢、栄養不良などで犠牲となる子どもの多くは、途上国の貧しい地域や紛争地帯、医療施設のない辺境の村々など、劣悪な環境で必死に生きる子どもたちです。ユニセフは、世界中のすべての子どもが生まれた国や境遇に関係なく等しく守られるように、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援活動を地域の人々と一緒に行っています。

(日本ユニセフ協会HPより)

今回の募金活動は、生活協同組合コープぎふ中濃支所の方々と一緒に行いました。生徒会執行部のメンバーが参加し、2万3千円ほどの寄付をいただきました。ご協力ありがとうございました。



<生徒の感想>

最初の第一声を出すまでは恥ずかしい気持ちがありましたが、一度声を出してしまうと、自分たちの声で多くの方々が笑顔で募金をしていって下さるのが嬉しくて、いつの間にか募金活動を楽しんでいました。活動をする中でとても多くの方が、世界の貧困問題に関心を持っていらっしゃるのを感じましたし、自分自身も問題の解決に向けて積極的に貢献したいと思いました。これからも様々な形で支援を行っていきたくて、ぜひ来年も募金活動に参加させていただきたいです。

関高校では、生徒会や部活動の有志メンバーを中心に、ボランティア活動や啓発活動、交流会など、さまざまな実践的な活動を積極的に行う予定です。